

平成 27 年度生理学技術研究会参加報告

高田昇治

工学系技術支援室 分析・物質技術系

はじめに

平成 28 年 2 月 18 日（木）～19 日（金）に自然科学研究機構 岡崎コンファレンスで開催された第 38 回生理学技術研究会に分析系技術職員との技術交流のために参加したので報告する。本研究会は、生物学技術研究会（今年は第 27 回目）と合同で毎年開催されており、今回も同様の形式で開催された。更に、奨励研究採択課題技術シンポジウムと同時開催でもあった（毎年同時開催）。本研究会では、大学、高等専門学校及び研究機関等における医学、生物学、工学分野の技術職員が、業務遂行上の技術的問題や些細な疑問点、失敗事例の集積、実験施設や機器の管理・運営問題等の討論を通して、研究および教育活動に寄与するとともに、技術ネットワークの拠点形成を行うことを主旨としている。



写真 1 藤森教授における研修講演の様子

技術研究会に参加して

2 月 18 日の午後 13:30 より、基礎生物学研究所 技術課 小林弘子課長による挨拶のあと、事務連絡があった。引き続いて基礎生物学研究所 初期発生研究部門 藤森俊彦 教授より、「ほ乳初期発生を考える」と題して研修講演が行われた(写真 1)。講演の冒頭に、どのように細胞の種類が決まるのか、体の大まかな座標がどう決まるのか、体のそれぞれの部分はどう作られるのか等についての自身の研究について話された。更には、胚が存在する子宮の形態やそれに伴う胚体外組織を含む胚側の形態を 3 次元的に解析するためのツール開発やその手法、現状について紹介された。その後、岡崎コンファレンスの入り口階段で記念撮影を行った。そして、休憩の後、40 件のポスター発表が行われた(写真 2)。約 1 分間のプレ発表とポスター発表を半分ずつのグループに分けて交互に発表が実施された。その後、自由討論の時間があり、それぞれのポスターで積極的な議論が行われた。発表は、多くの生体・生物関連機関より行われ



写真2 プレポスターの様子

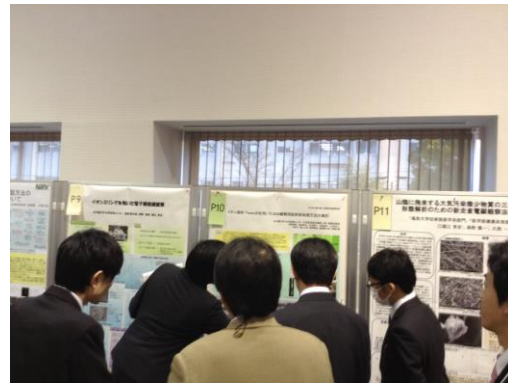
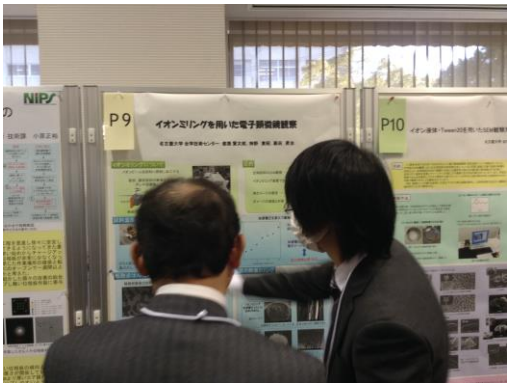


写真3 ポスター発表の様子

た。名古屋大学 工学系技術支援室分析・物質技術系からは「イオンミリングを用いた電子顕微鏡観察」と「イオン液体・Tween20を用いたSEM観察用試料前処理法の検討」と題してそれぞれ都築賢太郎および鳥居実恵が代表してポスター発表を行った。発表の様子は、写真2および3に示した。発表内容に興味ある方々がポスターを訪れ、議論を行っていた。

二日目の2月19日は午前9:00より、一般口演と奨励研究採択課題技術シンポジウムが並列セッションで開催された。本シンポジウムの発表は、科学研究費補助金（奨励研究）の採択者を対象に、講演者を生理研技術課が招聘する形式で進められており、招聘だけでなく科学研究費補助金（奨励研究）や技術者が申請可能な外部資金に採択された方を募集して実施されている。シンポジウムの発表時間は質疑応答を含めて20分であった。研究会では、休憩のために、お菓子（お土産を含む）やジュース類が豊富に準備されていて、更に休憩時間が比較的長めに設定されていたので、いろいろな機関の方と色々な話をさせて頂き、有益な情報を得ることができた。講演終了後、同会場で懇親会があり、自由な交流が行われた。このような貴重な経験をさせていただき、実行委員の皆様には感謝致します。